

H29年度 課題改善カリキュラム（道徳）

小学校は平成30年、中学校は平成32年度からの道徳の教科化に伴い、小学校と中学校がより一層連携して体系的な指導ができるように授業改善を行う。

課題（主題）：「多面的、多角的な考え方・感じ方ができる指導の工夫」

石神井東中学校

	第1学年	第2学年	第3学年
実践事例	6月10日（土）「いのちの講演会」 11月11日（土）道徳授業地区公開講座 B 思いやり「不自然な独り言」	6月10日（土）「いのちの講演会」 11月11日（土）道徳授業地区公開講座 A 向上、個性の伸長	6月10日（土）「いのちの講演会」 11月11日（土）道徳授業地区公開講座
課題改善のための工夫	人との関わり合い方の得意でない生徒が多い。中でも何も考えずに言葉を発してしまいトラブルになるケースが多くあり、道徳授業地区公開講座では、この教材（「不自然な独り言」）を選択した。	自分を客観的に見ることができる生徒が多くなったが、他人と比較して悩んだり、自信が持てない生徒がいる。自分の個性や良さを見つけ、それをどう伸ばしていくのかを、友達の助言によって考えさせた。	これまでの学校生活より、友情や協力する姿勢が育ち、成長を感じられる。しかし、自分の意思表示はするが、信頼や真の友情という点では、まだ不十分などころがあり、道徳授業地区公開講座では、「僕は友達を裏切ったか」を選択した。
改善点	道徳授業地区公開講座の教材は「多面的、多角的な考え方」の指導には適切であったが、1つの教材だけでは、生徒に身に付けさせることについては足りていないので、他の教材も合わせて指導して行く。	一度だけの授業に終わらずに、様々なテーマの授業を通して、考え方を広げさせ、物事をいろいろな角度から捉えられるようにしていく。	1年次より「思いやり」のテーマを継続的に取り組み、人間関係や行事の取り組みにまとまりがみられるようになった。 これからの自己実現に向けて、互いに励まし合い、高め合う関係を気づくことがいかに大切であるかを促していくとともに、心のとらえ方を多面的・多角的に感じる力を育てていく。

石神井東小学校

富士見台小学校

	第5学年及び第6学年	第5学年及び第6学年
実践事例	<p>5年：「ペットの行方」 C規則の尊重 東京都道徳読み物教材（H23年）</p> <p>6年：「見送られた二十級 - 松井秀喜」 A 正直、誠実 6年生の道徳 文溪堂</p>	<p>6年：「レジにて」B-(7)親切、思いやり 文溪堂 「最後のおくり物」B-(7)親切、思いやり 私たちの道徳</p>
課題改善のための工夫	<p>5年：この教材は、石神井公園が舞台となっている。児童が身近に感じられる石神井公園を題材にすることで、より自己へのふり返りがしやすいようにした。</p> <p>6年：児童にとって甲子園という舞台がどれだけの努力が必要な舞台であるかを事前に指導したことで、松井選手がどれだけの覚悟で打席に立っていることをとらえさせる。</p>	<p>6年：物事を多面的・多角的に考えることができるよう、ペアやグループで話し合う時間を設定した。授業の最後には振り返る時間を設け、学習した価値について発展させるようにした。</p>
改善点	<p>5年：本教材は、規則と義務は表裏一体であるというところを押さえるべきだと考え、学習指導を計画した。規則について、生命尊重の考えなどからの意見について考えたのは成果であったが、思考が分散されてしまった。</p> <p>6年：教材が児童の思考にあっていなかった。児童の実態にあった教材を精査する必要がある。</p>	<p>6年：児童は、物事の善し悪しを知識として理解している。授業の発言でも、よいこと、悪いことの区別はつき、答えとして発言することが出来ていた。建前だけでなく、本音を引き出せるよう、発問や学習形態を工夫する必要性を感じる。</p>

石神井東小学校

富士見台小学校

	第3学年及び第4学年	第3学年及び第4学年
実践事例	<p>3年「アニメソングの帝王に」A 個性の伸長</p> <p>3年：道徳的な価値について多面的・多角的な見方ができるよう、中心発問ではワークシートでじっくりと自己を振り返った後に、友達と自己の個性について交流する時間を設定した。</p> <p>4年「カタクリのゆめ」D 自然愛護 練馬区道徳資料集</p> <p>4年：物事を多面的・多角的に考えることができるよう、ペアやグループで話し合う時間を設定した。授業の最後には振り返る時間を設け、学習した価値について発展させるようにした。</p>	<p>3年：6月10日「雨のバス停留所で」</p> <p>C 公德心、規則の尊重</p>
課題改善のための工夫	<p>3年：自己の個性を理解している児童は少ない。自分の長所を書いたカードを友達からもらうことで、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばそうとする心情を育てるようにした。</p> <p>4年：この教材は、練馬区の西、白子川沿いの公園に自生するカタクリの花を題材にしたものである。花の美しさや生育の仕方だけではなく、それを守る人々の思いや、花畑のある公園、緑豊かな練馬区などへ興味・関心を深める意見を多く出し、話しあいながら、自然を愛する心情を育てるようにした。</p>	<p>3年：「規則」としてしっかりと定着してあるものに関しては守れる児童が多い。だが、きちんと「規則」として示されていないものに関して、自分がどうしたらよいのかを考えさせるようにした。</p>
改善点	<p>3年：教材文の水木さんの話が、児童にとって身近ではなかったため、中心発問で自分との関わりで考えさせることが難しかった。発問などの吟味が必要である。</p> <p>4年：カタクリの特徴的な咲き方や生育期間などについて、教師がもう少し知識をもち、補足をしてあげられると、もっと多面的、多角的な考え方・感じ方ができてきたと考えられる。</p>	<p>3年：誰かに言われなくても、自分がだめと思うことはしてはいけないという意見が出た。しかし、自分にも似たような経験がないかを聞いたときに手が止まる児童が多かったため、まだ自己への振り返りが不十分であったように感じる。</p>

石神井東小学校

富士見台小学校

	第1学年及び第2学年	第1学年及び第2学年
実践事例	<p>1年：「はしのうえの おおかみ」 B 親切、思いやり</p> <p>2年：「おじさんのてがみ」 C 規則の尊重</p>	<p>1年 「はしのうえのおおかみ」 「くり」 「ごろりん ごろん ころろろ」 B - (6) 親切・思いやり</p> <p>2年 「ぐみの木と小鳥」 B - (6) 親切・思いやり 「きょうからともだち」 B - (9) 友情・信頼 「モムンとヘーテ」 B - (9) 友情・信頼</p>
課題改善のための工夫	<p>1年：主人公の気持ちに共感しやすく、場面ごとの心情の変化に気付くことが出来るようにするために、動物が出てくる童話のような内容の教材を選んだ。</p> <p>2年：この教材は、公共の場できまりを守ることができた2年生に感動した主人公からの手紙である。校外学習の場に出かける前に本指導を扱うことで、きまりを守り、人に迷惑をかけないようにする態度が養えるようにした。</p>	<p>1年：主人公や登場人物の行動や、心情の変化が分かりやすい内容の教材を選んだ。登場人物が多い話もあったため、登場人物の絵を多く用いて、話の内容が分かりやすいようにした。</p>
改善点	<p>1年：様々な場面での主人公の気持ちの変化を考えることはできたが、他の登場人物の気持ちを考えることができず、考えに広がりをもつことができなかった。</p> <p>2年：教材が児童の実態に合い、公共の場ではきまりを守り、実践することができた。しかし、普段の学校生活の中で、人に迷惑をかける児童もいるので、繰り返しルールや基本的なモラルなどの倫理観を育てていく必要がある。</p>	<p>1年：子どもたちは、話の内容をよく理解し自分の考えをもつことができた。多面的・多角的という点では、1年生の発達段階もあり、他者の意見を聞いて考えたり振り返ったりすることは十分にできなかった。意見の交流のさせ方や、発表のさせ方を工夫していきたい。</p>

